

令和6年度JR線・智頭線中部地区利用促進協議会総会 会議録（要旨）

（日時）令和6年6月4日（火）13時30分～14時38分

（場所）JA鳥取中央河北支所2階 大会議室

（出欠）会員26団体 出席19名・欠席7名（開催要件：半数以上）

= 次第 =

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 出席者報告
 - (1) 総会出席者名簿
- 4 現況報告
 - (1) 西日本旅客鉄道株式会社倉吉駅 取組報告
 - (2) 智頭急行株式会社 取組報告
- 5 議事
 - (1) 令和5年度事業報告（案）及び収支決算（案）について【承認】
 - (2) 令和6年度事業計画（案）及び収支予算（案）について【承認】
 - (3) 令和6年度特別会費 事業計画（案）及び収支予算（案）について【承認】
 - (4) 役員改選について【承認】
- 6 その他
 - (1) 令和6年度会員名簿
 - (2) JR線・智頭線中部地区利用促進協議会会則
- 7 閉会

《主な意見等》

2 会長あいさつ

- 今日の日本海新聞の一面で、昨日の会議の概要が記事となっていましたが、車両更新が早ければ4、5年ぐらいでという話があり、利用促進に向け、新しい車両が役立ってくれるのではないかと期待している。
- 来年、県立美術館が開館し、関西万博も始まるということで、いかに中部に観光客を誘致するのが非常に課題であると考えており、今年度から準備もしっかりと行い、JR線・智頭急行を利用してもらいながら、観光振興・地域振興に大きく貢献していきたいと考えている。
- 本日、昨年度の事業報告と収支決算、そして、今年度の事業計画と収支予算案、役員改選の議題を予定をしている。
- 本日の会議が今後の地域振興に大きく貢献することを祈念し、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

3 出席者報告

出席者名簿をもって報告とする。

4 現況報告

(1) 西日本旅客鉄道株式会社倉吉駅 取組報告

＝倉吉駅長報告＝

- 6月1日付けの人事異動で、米子駅から倉吉駅に異動になった。
- 組織として、2024年6月1日に鉄道部から鳥取管理駅に組織改正があった。営業等への影響はない。
- 令和5年12月20日に倉吉駅開業120周年記念としてイベントを実施した。
- 列車発着本数としては、スーパーはくとは平日、休日ともに11本と全体的に増えた。
- 倉吉駅の販売体制としては、緑の券売機プラス、緑の券売機、近距離発売の自動券売機の3台で販売体制をとっている。
- 120周年記念イベントでは、鬼太郎列車を倉吉駅で展示し、沢山のお客様にお越しいただいた。10月15日には、ばえん祭でも踏切非常ボタン体験を実施した。その他、七夕の飾りつけを鳥取短期大学・看護大学と、山陰合同銀行と挨拶運動、スーパーはくと名探偵コナン号出発式、春秋の消防訓練や不審者対応訓練を倉吉消防署や倉吉警察署と共同で行った。
- 利用状況としては、ゴールデンウィーク中、スーパーはくとの利用者が2万1111人で、対前年比が101%、2018年比では94%とコロナ前の数字には至らなかった。遠方から北栄町のコナンの青山剛昌ふるさと館に非常に来てもらったと聞いている。近距離については、利用者数が対前年比104%、コロナ前とは80%であった。
- 商品としては、ウエスターポイントを挙げている。来春、鳥取駅と倉吉駅の間によりやくICOCAが導入されることとなった。WEB商品としては、スーパーはくとの乗車券を購入する場合、早得7なら片道約1000円、早得14だと約2000円ぐらいで購入でき、売れ行きも好調である。トク特チケットレスも、米子と倉吉間は700円で非常に安く特急の普通車指定席も乗れるので好評である。tabiwaも山陰のんびりパス、鳥旅のススメパス、松江出雲ぐるりんパスを用意しており、鳥旅のススメパスの場合、3日間で大人が4500円で乗り放題となっている。
- ねんりんピックがあったり、来年3月には県立美術館もオープンするので、県外からの観光客に着地型商品として販促をしていくことを考えている。

＝質疑応答＝

なし

(2) 智頭急行株式会社 取組報告

＝代表取締役社長報告＝

- 昨日開催した第38回定時株主総会で議案の承認をいただいたので、その内容を報告する。
- 輸送人員としては、第38期が72万8,000人余りと、前年度比28%アップ、コロナ前の34期比で85.8%で、まだ戻りきってない状況である。

- 収支状況としては、営業収益が24億余で前年比2億6,000万円増となっている。費用は23億余ということで4,600万余りの増で、営業損益としては8,100万の黒字となり、コロナ禍の3年間は赤字だったが、黒字化することができた。なお、行政からの様々な支援として計上している特別利益を踏まえると、トータルの当期純損益は1億6,000万となった。
- 利用促進の取組としては、去年12月からコナン列車を走らせた。出発式にも市長をはじめ、沢山の出席をいただき感謝している。
- 3月のダイヤ改正では、トータルで1往復増やし、更に姫路の接続を改善し、時間短縮を図ることができ、乗継しやすくなった。
- 車両更新については、智頭急行が単独で導入できればよいが、車両数34を全部更新することは困難なので、JRと共同開発で一緒に作れるようお願いしている。智頭急行としては、JRの更新計画に載せてもらえるように話をしている。4年から5年と記事になったが、他の導入事例を踏まえると、構想1年、設計に1年から2年、製造に2年で大体4年から5年を要していることから、最速でもこれから4、5年程度は必要と考えている。今は、ハイブリッド車が第1候補と考えている。水素や様々な燃料を活用する車両もあるので、例えば、国の支援制度で財政負担が少なくなるのであれば別のものということはあるかもしれないが、今の第1候補としてはハイブリッド車を考えている。JR東海では時速120キロで走行しており、今の車両は時速130キロで走るので速度の問題はあるが、第1候補として調整を進めている。
- 智頭急行の開業30周年記念事業としては、4月23日に制服のリニューアルを行った。30周年という区切りの年なので、様々なことに取り組もうと考えている。プレミアムハザ、スーパーはくとの運転席の隣の助手席に座ってもらう体験だが、参加費3万円に乗車賃・特急料金を加えて、実質的には3万2,000円の商品になるが、これを募集したところ、開始1時間余りで全16回が全て売り切れた。HOT3500系運転体験は、6月22日に大原車両基地で、午前3人、午後3人の募集枠を用意したが、開始3分で売り切れ、非常に好評だったので、また後期に実施したいと考えている。ネーミングライツは、苦戦をすと思っていたが、一番高いところを販売することができた。
- 今後も外から、特に関西圏から県中部にお客様を案内することをしっかりPRしながらやっていきたい。

＝質疑応答＝

なし

5 議事

(1) 令和5年度事業報告(案)及び収支決算(案)について

＝事務局(市)説明＝

- 令和5年度の事業報告としては、昨年度は7月7日に総会を開催し、事業計画等を審議いただいた。その後、7月と11月に特別会費の事業として、キャンペーンを計3回実施した。12月には名探偵コナン号の運行開始や、プレス発表でスーパーはくとの増便、I C O C Aの導入が盛込まれた。3月には、昨年度から開始した事務レベルの意見

交換会を幹事を中心に開催し、智頭急行とJRと意見交換をさせてもらった。特に、新幹線とスーパーはくとの乗継改善により、関東圏からの来訪が4時間台から3時間台に短縮できたのは、1つ大きな集客に繋がるということで非常に大きな支援をいただいた。

- 昨年度の各会員の活動状況のうち、倉吉市では、鳥取県を中心に取り組んでいる公共交通乗ってe c o h！県民運動の一環として、企画課で市内、県内出張に伴う旅費を一括で予算化し、研修や会議等への参加の際に、特急利用等を積極的に行ってもらおう取組をしている。

＝会員（琴浦町観光協会）説明＝

- JR浦安駅赤碓駅開業120周年記念の位置付けて、海岸通りを目で追いながら浦安駅から赤碓駅を目指して歩くウォーキングを実施した。琴浦町の広報誌と一緒にチラシを全戸配布した。参加者は60人ぐらいで、行きはウォーキング、帰りはバスや鉄道などいずれかの公共交通を使って帰ってもらおうという取組を行った。琴浦町の海岸通りにあるいろんな観光資源とそれを生かしたウォーキングと、120周年記念事業として公共交通を意識して活用していこうという取組であった。

＝事務局（市）説明＝

- 昨年度の収支決算としては、収入は計画通りの会費をいただき、繰越金と合わせて33万5,525円で決算した。
- 支出としては、昨年度、要望活動を実施しなかった。理由としては、昨年7月の総会時点で県とJRで協議が進んでいたこと。結果、一定の前進があったことから要望の再整理が必要となり見送った。その結果、会議費、事業費、通信費のみを使用し、トータル7万7,536円、差引25万7,989円を次年度に繰り越した。
- 特別会費事業については、昨年度、3つのキャンペーンを実施し、7月のサマーキャンペーンで8組18名と非常に少なかった。原因は、総会終了から夏休みの開始までに周知する時間がなかったこと。次にオータムキャンペーンを11月に実施し、500名を超える方に利用をいただいた。また、乗ってわくわくキャンペーンとして、スーパーはくとの利用者のうち、アンケートの参加者に中部の特産品が当たるプレゼントキャンペーンを実施し、245名に応募をいただいた。トータル800人弱の集客に繋がった。
- 乗ってわくわくキャンペーンのアンケートでは、特急スーパーはくとの利用目的としては観光や帰省が中心、加えて今後の利用希望として、殆どの方がまた利用したいという意見であった。キャンペーンのニーズについては、特産品が当たるプレゼント、宿泊割引のような特典付きの乗車券、運賃割引の意見であった。移動や情報の面で困ったこと不便だったことについては、電車の本数が少ない、バス等の本数が少なく、更に、2社で複数のバス路線を運行しているため、非常に分かり辛いという意見であった。
- 特別会費事業の収支決算として、収入は県、中部市町の会費として計100万円をいただき、繰越金と合わせて172万6,021円であった。
- 支出については、運営費と合わせて161万3,990円で、差引11万2,031円を次年度に繰り越した。

＝監査報告（事務局代理）＝

- 5月28日に関係帳簿及び通帳等を詳しく監査していただき、全て適正に処理されていることを認めていただいた。

=質疑応答=

なし

(2) 令和6年度事業計画(案)及び収支予算(案)について

=事務局(市)説明=

- 令和6年度の事業計画案を説明するが、事前に幹事会を開催し、審議したものを提案している。
- 事業計画案としては、大きな柱3つを立てている。昨年度と異なる部分を中心に説明する。
- 広報活動は、各会員が持っている媒体を活用し、智頭急行の開業30周年記念事業等の積極的なPRを行いたいと思うので協力をお願いしたい。なお、30周年のロゴ等については、事務局の方で全会員の利用申請を一括して行い、事務局から会員各位へ提供していきたいと考えている。
- 中部観光×JR線・智頭線利用促進PR動画の作成・配信として、一般会費でJRやスーパーはくとを利用した中部の旅を印象付けるような15秒程度の動画を作り、会員各位に提供していきたい。なお、この動画は、12月から3月の県立美術館の開館前に広報で使用したい。
- 利用促進・誘客活動としては、所属会員への利用促進や、公共交通乗ってe c o h ! 県民運動を中心に展開していきたい。
- 要望活動としては、令和5年5月の分類見直しにより、公共交通の利用もコロナ前の利用状況に少しずつ近づきつつあると考えている。日本政府観光局の発表では、特に、インバウンド需要については、国内でもコロナを上回る勢いが出てきており、中部圏域でも北栄町のコナンのふるさと館周辺を中心に、外国人観光客の姿を多く見られるようになってきた。3月30日には県立美術館が開館するというところで、国内外からの観光需要を取り込むということが必要なので、中部地区の観光情報やスーパーはくとの鉄道による移動の快適性や利便性を圏域外に発信していく、併せて圏域住民も鉄道利用を意識してもらえそうな展開を実施していきたい。そのためにも、昨年度から始めたJRや智頭急行との定期的な意見交換を継続していきたいと考えている。
- 令和6年度の要望案だが、3月から4月にかけて各会員から要望事項を取りまとめ、幹事会を経て整理した。
- JRへの要望としては大きく5つ。1番2番はダイヤ改正で、スーパーはくとの倉吉駅の発着便数の維持と1便でも多く乗り入れが実現するようにダイヤ改正の検討をお願いしたい。また、令和3年、4年のダイヤ改正で減便になっている列車の復便も求めて利便性の高いダイヤ改正をお願いしたい。
- 3番、4番については、観光客、インバウンド目線の要望で、3番は、特に無人駅への多言語対応の電光掲示板などの設置による快適な利用環境の整備をお願いしたい。4番は、ICOCAに関する内容で、北条駅から淀江駅の区間とスーパーはくとはくが運行する因美線の鳥取駅から智頭駅へのIC改札機の導入方針を早期に打ち出してもらいたいとい

う要望を出していきたい。こちらについては、今、県と中部市町で次期公共交通計画の見直しを進めており、路線バスへのキャッシュレス化も大きな検討材料になることから、中部市町で足並みそろえて進めるためにも早期のICOCA導入を働きかけたい。また、改札機の導入が完了するまでの間、特に無人駅を中心に、訪日外国人観光客の問い合わせ対応なども配慮をお願いしたいと要望していきたい。

- 5番目については、住民、特に高齢者がチケットレスやインターネット予約などIT化に対応できるよう、無人駅への緑の券売機プラスの拡充やオペレーター呼び出し機能の営業時間の維持をお願いしたい。
- 智頭急行に対する要望としては、1番目として名探偵コナン号の運行の固定化、固定化や商品化しやすくするために、車両更新の際に名探偵コナン号の増車を、予算も絡むが検討をお願いしたい。更に、スーパーはくとは鳥取発着の場合に、名探偵コナン号が在来線のコナン列車との接続により楽しく旅行ができるようなお客様目線のサービスの充実をお願いしたい。
- 2番目としては、名探偵コナン号の運行変更等に関する運行情報の充実をお願いしたい。
- 3番としては、開業30周年事業が非常に人気なので、この盛り上がり、機運が続くように主体的なイベント等の実施に努めてもらいたい。今後、この協議会としても一緒に盛り上げてけるような取組をしていきたい。
- 4番としては、JRと一緒にICOCAの早期導入を求めている。
- 今年度の要望活動は、例年より前倒しし、7月下旬から8月中旬のあたりに実施したいと考えている。JRの山陰支社長が6月19日付けで交代されるので、その後に日程調整し、会員各位に案内する。
- 一般会費の予算案としては、例年通りの会費を頂戴し、繰越金と合わせて38万7,990円で予算を組み、支出の部として、例年通りを基本に事業費を7万円増額し、そのうち15万円を使って動画を作成していきたい。
- 収入支出それぞれ38万7,990円とし、限られた予算の中で事業を実施していく。

＝質疑応答＝

なし

(3) 令和6年度特別会費 事業計画(案)及び収支予算(案)について

＝事務局(市)説明＝

- 今年度の特別会費の事業計画としては、予算の範囲内で直接利用促進に繋がる特別会費事業ということで、インパクトのあるものを検討した結果、運賃割引キャンペーンを実施していきたい。メインターゲットは、圏域住民700名としたい。昨年度のプレス発表でもあったように、特急料金の値上げ、特急の全席指定席化により圏域住民が特急を利用し辛いような傾向にあると考えている。このため、通勤や遊びで割引キャンペーンを利用して圏域住民に特急を利用していただくようなことに取り組んでみたい。実施時期としては、今年9月から大体3か月程度を実施し、この後に一般会計事業の動画を配信していくと、県美オープンに繋がる形になると思っている。
- 運賃割引キャンペーンの詳細としては、倉吉駅出発の特急スーパーはくと上りを使われ

る方を対象に、1乗車1名につき1,000円を割り引くことで、特急を利用してでも在来線の乗車運賃程度で鳥取へ行ける。圏域住民にも積極的にスーパーはくとを利用してもらい、PRをしてもらいたい。

- 特別会費の予算としては、県と中部市町で100万を頂戴し、繰越金と合わせて111万2,040円で予算を組んだ。事業費は110万円とし、運営費を計上して収入と同額としている。補助金としては70万円を用意しているが、宣伝費25万円の経費が抑えられれば、補助金に上乘せし、可能な限りスーパーはくとの利用に繋げていきたい。

＝質疑応答＝

(北栄町)

- 以前からJR由良駅へのスーパーはくとの乗り入れを要望しているが、乗降人数等の問題でなかなか実現が難しいと聞いている。しかし、スーパーはくとコナン号ができたことで、例えば、ディズニーみたいに舞浜駅で降りて、ディズニーリゾートラインに乗ってディズニーを感じながら目的地へというようなことをできるので感じた。スーパーはくとコナン号の車内でコナンを感じながら、今ある在来線のコナン列車と上手く引き継ぎがあれば、似たようなことに近づけると思うので、ぜひこの要望を強くプッシュしてもらいたい。最終目的はスーパーはくとの乗り入れだが、その間はこの方法で接続、乗り入れしていくような形を取りたいので、協議会として要望をお願いしたい。

(4) 役員改選について

＝事務局(市)説明＝

- 役員改選は1年更新となっており、昨年度の総会のときに県立美術館オープンまでは役員留任をお願いしたところだが、監事については、現役員から留任が非常に長くなり、別の役も増たことから同一町内の他団体に協力をお願いしたいと話があった。今年度の監事としては、琴浦町観光協会の山下会長と湯梨浜町商工会の川田会長に新任でお願いしたい。

＝質疑応答＝

なし

6 その他

＝質疑応答＝

(倉吉市議会)

- 新幹線議連を作って山陰新幹線を、と要望してきたが、100年はできないという話もある。車両の入替と話があったが、時間短縮できるような高速鉄道のための車両として運行できるようになるか。乗り心地はどうか。早めの車両更新をお願いしたい。

(智頭急行)

- 今の技術からすると若干スピードが落ちる。現在、最高速度130キロだが、今、開発されているハイブリッド車も時速120キロ。正直、短縮は難しい。車両更新によって、あまり遅れなく運行できるのではないかとJRと相談をしているが、今の技術では、スピードアップは恐らく難しい。他地域で運行中の車両で乗り心地は良いと聞いているので、車両更新で同程度のものを整備することが今の目標で間違いはない。

7 閉会

(広田会長)

今年度の利用促進協議会の総会を閉じさせていただく。今後の要望活動等に対し、会員各位の協力、支援をお願いしたい。

以上